

## 疑問をもち、自ら問題を見いだすことができるみずほっ子の育成

～導入や事象提示を工夫して～

### 1 ねらい

これまでの理科教育では、社会の変化に対応できる人を育てることが求められていた。しかし、これからの時代は受動的な態度ではなく、持続可能な社会を実現していくために私たち自身が何ができるかといった能動的な態度が求められる。そして、理科教育では見いだした問題を観察や実験を通して科学的に解決するだけでなく、学んだことを自然の事物・現象や日常生活と関連付けて考えていく中で、より現実的な諸問題を科学的な根拠を基に解決しようとする子どもの育成が大切になってきている。また、友達と協働的に問題解決していく過程で形成された概念を基に、新たな問題を見いだしたり、科学の有用性や学ぶ意味を実感したりしながら、自然の巧みさや美しさなどを素直に感じられる子どもを育てることが重要だと考える。これらのことを踏まえ、本校では、子どもが自ら疑問をもち、その疑問から問題を設定することや問題解決の8つの過程を重視した授業を展開することに取り組んでいきたい。そして、自ら問題を見だし、主体的に問題解決していく子どもを育てていくことを研究のねらいとして取り組んでいく。その第一歩として本年度は、「子どもが疑問をもち、自ら問題を見いだす」ところに重点を置いて研究を進めていく。

### 2 ねらいに迫るために

実践計画について

本校が目指す理科教育（子どもが自ら疑問をもち、その疑問から問題を設定することや問題解決の8つの過程を重視すること）を実現するためには、右の図のような授業の流れが基本となる。

その中で今年度は、①「自然事象への気付き」と②「問題の設定」に重点を置いて実践を行う。

#### ①「自然事象への気付き」のための手立て

子どもが疑問をもつことができるように、「焦点化」や「ゆさぶり」を意識した事象提示を行う。

##### <事象提示の例>

- ・実物を見せる。
- ・ICTを活用し、写真や動画を見せる。
- ・導入時に観察や実験を行う。
- ・自由に試行できる、体験活動を行う。 など

#### ②「問題の設定」のための手立て

子どもがもった疑問を整理し、観察・実験等で解決可能なものを「問題」として設定する。子どもが自ら問題を設定するために、事象提示から子どもたちが「知りたいこと」「調べたいこと」を問う発問をする。子どもたちから出た意見を板書し、板書した言葉を整理して、問題を設定する。

